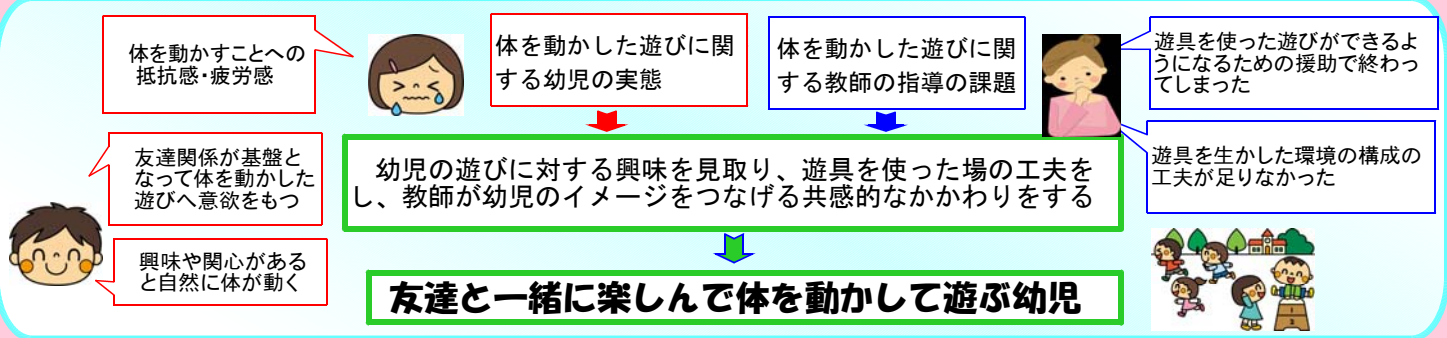


友達と一緒に楽しんで体を動かして遊ぶ幼児を育む保育の工夫 ～イメージをつなげる、遊具を使った場の工夫と教師の共感的なかかわりに視点をあてて～

主題設定の理由

幼児教育、幼小連携班 小山 美子(幼稚園教諭)



実践 (4歳児 11月)

手だて1 幼児のイメージを遊びにつなげる 遊具を使った場の工夫

<幼児の遊びへの興味を見取る>

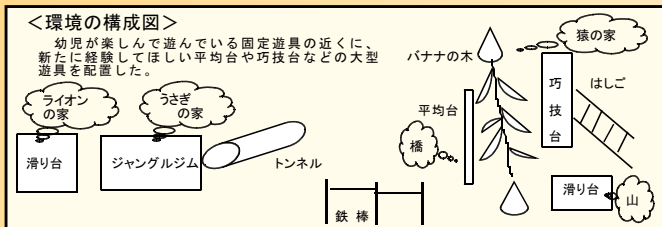
○登り棒や鉄棒で動物のつもりになって、登ったりぶらさがったりする動きを繰り返し楽しむ幼児の姿から、固定遊具や動物のつもりになって遊ぶことに興味があることを見取った。

<遊具を選び、配置を工夫する>

○登る、ジャンプする、渡る、くぐる動きが経験できるよう、幼児が楽しんで遊んでいる固定遊具の近くに巧技台や平均台、トンネルなどの大型遊具を配置した。

<イメージを引き出す具体物を加える>

○遊具を使った場にバナナをつるしたり、幼児がイメージした動物の看板を固定遊具の近くに準備したりした。



私はおさるさん。ここがお家だよ。橋(平均台)を渡ってバナナを取りに行こう。

バナナをたくさん取ったよ。ウッキー。ジャンプして降りよう。

トンネルをくぐるとうさぎさんのお家だね。よし、行ってみよう。

あっちのバナナは、はしごを登ると取れるね。登ってみよう!

このバナナはジャンプすると取れるかな? よし、ジャンプ!

考察

木につるされたバナナや動物の看板、はしご、橋や家に見立てた平均台や滑り台を見て、幼児のもっている猿やライオン、うさぎなどのイメージが広がった。幼児は、イメージをもって動物のつもりになって遊ぶ中で、登る、ジャンプする、渡る、くぐる、飛び降りるなど、固定遊具や大型遊具を使って自然に体を動かして遊ぶことができた。

手だて2 幼児同士のイメージをつなげる 教師の共感的なかかわり

<イメージを受け止める>

○「ウッキー」など声を出しながら動物のつもりになって楽しそうに遊んでいる幼児に共感する言葉掛けをした。また、遊具を家や山、橋などに見立てて遊んでいる幼児に「私も、橋を渡ってみよう」「ジャンプだね」などと伝え、幼児のイメージと同じ動きをした。

<イメージや動きを伝える>

○「ここには、バナナ取りの上手なお猿さんがいますよ」「あっちに行くとお猿さんのお家がありますよ」など幼児に伝え、友達のイメージや動きに気付けるようにした。

<モデルとなる>

○教師も遊びの一員となり、周囲の幼児が遊具を使った動きに気付くよう、動物のつもりになり、大きな動きをして遊んだ。

僕も一緒に猿のお家に行きたいな。

ライオンさん、私のお家に来ていいよ。お山を降りるとお家だよ。

<イメージを受け止める>

お猿さんは山登りが上手だね。もうすぐお家に着くね。

私もお山を登ってお家に行こう。

<イメージや動きを伝える> <モデルとなる>

ここにバナナ取りの上手なお猿さんがいますよ。ジャンプも上手だよ。先生もやってみよう。

〇〇ちゃんは、たくさんバナナを取ったね。一緒にバナナを食べよう。バナナおいしいね。

私はいっぱいバナナを取ったんだよ。すごいでしょ。

考察

教師が幼児のイメージを受け止めたことで、自分の動きに自信をもち繰り返し同じ動きを楽しんでいた。また、友達や教師の動きに刺激され、友達の動きを真似たり、友達と同じ動きをしたり、友達と直接かかわったりして動物の動きや振る舞いに共通のイメージをもって一緒に遊んだ。このようにイメージをつなげることによって、イメージが支えとなり、友達と一緒に楽しんで体を動かして遊ぶことができた。

成果

○幼児の遊びの中から興味のあることを見取り、「遊具を選び、配置する」「イメージを引き出す具体物を加える」という遊具を使った場の工夫をすることで、幼児のイメージを遊びにつなげ、そのつもりになって遊具にかかわり体を動かして遊ぶことができた。
○「イメージを受け止める」「イメージや動きを伝える」「モデルとなる」という共感的なかかわりをする事で個々のイメージをつなげ、イメージの共有へと導くことができた。このことにより、友達と一緒に楽しんで体を動かして遊ぶ姿につながった。

課題

○遊具を使った場の工夫は、幼児がいろいろな遊び方を考えたり、幼児のイメージに応じたりできることが大切である。そのために遊具や必要な具体物の配置を自分たちの思いで変えたり、遊びの場を作ったりできるような環境の構成を工夫していくことが課題である。